■　コロナ禍の大学生活と大学からの支援　■

～（ある女子大生の場合）～

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まってから、１年半が経とうとしています。この間に、娘は大学に進学し、今は２年生に進級しました。昭和大学附属烏山病院での診療、リハビリセンターのプログラムへの参加とともに、大学の支援制度を利用しながら、なんとか大学生活を送っています。

○支援を受けるために　申請書、面談、支援カード○

大学に支援を依頼するため、入学前の２月に、障害学生を支援する部署である学生課に連絡を入れました。まず、私一人で相談に向かい、後日、娘が面談に向かいました。娘の大学の場合、支援を受けるためには、医師の診断書等を添えた申請書を提出した後、学生本人が、学生課（職員）、教務課（教員）、学生相談室（臨床心理士）、保健センター（看護師）、１年生担当教員、校医、副学長との面談を経て、認定を受けます。認定を受けると、依頼した支援内容が講義担当教員に伝えられます。また、支援カードが発行され、困った場面でこのカードを示すと支援を受ける学生であることを理解してもらえるという仕組みです。娘の場合は、感染症対策として大学への入構禁止措置が取られたため、途中からオンライン面談に切り替わりました。予約も含め、面談を忘れることが続き、結局、認定を受けられたのは７月になってからになりました。ただし、学生相談室カウンセラーとは、4月から週一度のペースでオンライン面談を受けることができました。

○パソコンの画面だけでは情報整理が困難○

一度も登校しないまま始まった履修登録では、知り合いも居らず、個別対応はしないとの大学の方針により、誰にも頼れないという状況に直面しました。リベラルアーツ系の大学で１年生は専攻が定まっていないため、ほぼ全科目を自ら選択する必要がありましたが、シラバスの理解、大学独自のオンラインシステムの理解という二つの課題を抱えることになりました。「手順書をとばさずに読む」ことが苦手な娘には、パソコンの画面だけでは、付箋を貼ったり、蛍光ペンを引いたりできないため、画面を読んでも読んでも情報を整理していくことが非常に困難でした。大学生になったら手を離そう！というのが親の私の目標でしたが、結局、かなり手伝ってしてしまいました。

講義が始まってからも、配布資料の印刷、予定管理などを手伝いました。全科目オンライン講義で、全科目毎回課題提出が求められましたが、オンデマンド型講義ではパワーポ

イント資料が 70 頁前後あることが多く、パソコンの中だけで読んで理解するのは異常に時間がかかってしまうためです。常に課題の締切を抱え、深夜や休日にも大学からメールが来る日常に、パソコンの前に座っていないと落ち着かない、という精神状態になり、立ち上がるにもすぐには動けないほど体が凝ってしまっていました。特に大変だったのが、自撮り動画を提出する体育運動学の課題でした。屋外で取り組んでいましたが、動いているうちに画面から外れてしまうため、撮りなおし撮りなおしで日が暮れて、心霊写真のような自撮り動画を提出していました。またある科目では、リアクションペーパーに、「～の論に混乱した」と書いたことから先生の不興を買ってしまったことがありました。本人は「わからなかった」と言いたかっただけなのですが、「混乱」という言葉に先生は批判されたと受け取られたようでした。この件に関しては、学生課の支援担当者から先生に連絡を取っていただきました。連絡の結果、実は先生は、学生課から発信された支援依頼のメールを読んでいなかったということがわかり、この後、講義資料についても、印刷しやすいように、パワーポイントではなくワードで 10 枚前後にまとめたバージョンの提供を申し出てくださいました。

1 年生終了時、学生課に、支援の継続や支援内容の変更についてお伝えする機会があり、困ったことについて二つお伝えしました。一つは、オムニバス形式の講義の場合、支援依頼の情報が周知されていなかったこと、もう一つは、外国籍の先生方が支援依頼の情報を理解していなかったことです。その結果、外国籍の先生方向けには、英訳版の支援依頼を配布していただけることになりました。

2 年生になり、専攻学科が定まると昨年より受講が楽になったようです。講義担当教員と学生との距離が近くなったためか、出欠確認代わりの課題提出が減り、パソコンから離れられる時間が増えました。また、1 週間だけですが対面講義を経験できたことで、「わけもわからないまま」ではない状態で、3 度目の緊急事態宣言後の再度の全面オンライン体制に臨むことができたようです。

○他大学での単位互換講義で大きな変化○

最も大きな変化をもたらしたのは、他大学での単位互換講義への挑戦です。自大学の教務課からは「他大学に対して支援依頼はできません」との連絡を受けていたので、事前に単位互換先大学に事情説明をしに親子で伺いました。単位互換を取り消されないか、恐る恐る事情をお話ししたところ、担当者の方から、「実は、これまで、聴講生に対しての支援を行った実績はありません。でも、聴講生であっても本学で学ぶ以上、本学の大事な学生であることには変わりないと考えていますので、しっかりと支援させていただきます」との言葉をいただきました。その言葉を聞き、娘の顔に一瞬で生気が戻りました。そして、驚いたことに、自分から申請書の記入方法について質問をしていました。

支援の申請書は、自大学のものと比べると、大変記入がしやすいものでした。依頼したい支援内容があらかじめ記載されていて、該当箇所に印をつける形式がほとんどでした。自大学の場合は、学生側が一つの記述欄に記述する形式だったのですが、大学ではどのような支援が必要なのかがなかなかイメージできなかったため、ただ苦手なことを書き連ねて「合理的配慮をお願いします」としか書きようがありませんでした。提出後の対応も 2 大学で異なっていて、自大学では学生が支援カードを見せて支援を依頼することがあるなど割とオープンな印象でしたが、単位互換先大学では、個人情報保護の観点から、人前で支援対象学生であることがわからないよう教員に厳しく注意が求められていました。そして、印象深いのが、相談システムの違いです。自大学の主な相談対応者は、カウンセラー（臨床心理士）と学生課職員であるため、心理面、生活面での心配事に対する相談には乗

ってくれますが、「レポートが書き出せない」といった相談に対しては「それは担当の先生に相談するとよいですよ」というアドバイスにとどまっていました。頑張って担当の先生に相談することができても、先生から必ずしも解決につながる回答がいただけるとは限りませんでした。一方、単位互換先大学では、支援担当部署にアポイントを取れば、担当職員が、学生から課題を聞いた上で一般的なレポートの書き方について相談に乗ってくれるようです。

○彼女を変えた「本学の大事な学生」という言葉○

これまで、「人に助けを求めること」が、とにかく、本当に、全くできなかった娘でしたので、自ら支援部署に問い合わせをしたことを知ったときには、喜ぶより、狐につままれたように感じてしまいました。でも、おそらく、彼女を変えたのは「本学の大事な学生」という言葉なのだろうと密かに思っています。遅ればせながら、私も再び娘の「手を離す」努力を始めようという気持ちになれたように感じています。とはいえ、大学生になると同時に家に籠りきりの生活となり、まともに人と関係を構築する機会が失われたままであるため、友人関係等を学ぶことができないままとなっています。対面講義中心の大学生活となったとき、大きな課題が待っているかもしれないと覚悟はしておこうと思っています。
（Y.T）

■発達障害当事者の映画「僕が跳びはねる理由」■

渋谷アップリンクで「僕が跳びはねる理由」をみました（公開は終了）。ASD(映画では自閉症)当事者・東田直樹さん(現在28歳)が13歳のときに書いた原作を元に海外の10代の当事者5人と親の現在を描くイギリスのドキュメンタリー映画です。映画に出てくるのは発語が充分にはできないなど症状としては重度の若者たち。

まず回りの状況をつかむ五感と思考に困難があることが映像で表現されます。全体より部分を視覚してしまう、木々のざわめきをうるさすぎると感じる、2歳の誕生日と10分前の記憶が時系列でなくそれぞれの点として記憶されている、そして感情コントロールの難しさ。

さらに自分の感情や思考を言葉と行動で、適切に表すことの困難が本人によって文字盤などを使って語られ、軽度も含めてASDの特性はコミュニケーションの困難というのがよくわかりました。跳び跳ねることも叫ぶこともあるけど、それは思うように伝えたいことが伝えられないもどかしさ。そこをくみとって一人の同じ人間として見てほしいという訴えは切実でした。

そしてそうした世界に放り込まれてしまった辛さも感じられました。ただかわいそうと思ってほしいというより理解してほしいという映画でした。

当事者だけでなく親たちの思いも語られます。監督も息子が当事者であり「息子の親なきあとを語るのは辛い」と言葉をつまらせます。ここは同じ当事者の親の私には胸に迫るものがありました。

見て良かったです。　(M.N)

■　「烏山東風の会」今後のスケジュール　■

「烏山東風の会」では、新型コロナ対策対応の為、充分な活動が出来ていません。
世話人会の見学・参加、ご意見等は下記にご連絡ください
●携帯電話　　080-3009-1200
●メールアドレス　kochinokai@au.com
各種、お問い合わせ、ご相談もお受けしております。

「烏山東風の会」ホームページでも、情報を発信しています。
●「烏山東風の会」ホームページアドレス　https://www.kochinokai.com/

■　会費振込のお願い　■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。新しい年度になりますので、今年度の会費につきまして１年分６０００円、または半年分３０００円を、以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

① 三菱ＵＦＪ銀行　永福町支店　（普）０１０６５５０
　「烏山東風の会　会計　黒田邦夫」
② ゆうちょ銀行　記号・番号：１００００－２９５７６５２１　「烏山東風の会」

お問い合わせ：黒田邦夫　０９０－４１７３－７６０４

デイケア写真館

ASD グループの紹介

7 月となり猛暑の季節になりそうです。
私は毎週木曜日午前 9 時半から 12 時半まで、ASD グループというプログラムに参加しています。およそ 10 名が参加しており、多いときは 15 名くらいいます。このプログラムでは、顔が覚えられなかったり、会話が苦手などの困りごとのある方が参加しています。そのため､ASD の特性についての講義やコミュニケーションスキルについて学んでいます。コミュニケーションスキル向上のために、会話の練習を実際に行う“ロールプレイ”は、特に印象に残っています。
参加した感想は、とても雰囲気が落ち着いていて、緊張しやすい私でも安心感を持って参加できました。全 20 回のプログラムのため期間は長いものの、ペースがゆったりしているのでスキル向上にも負担なく参加できます。
とても通いやすいので、皆さんも気兼ねなく参加されてみてはいかがでしょうか。

（N.S）